

文化厚生だより

NO.3

烏山小学校 P T A
会 長 小林 拓未
文化厚生委員長 市原 佐紀

(第1回 家庭教育学級活動報告)

文化厚生委員会では、7月9日に「第1回家庭教育学級」を開催いたしました。お忙しい中、98名の方にご参加いただき、盛況のうち終了いたしました。ご出席いただきました皆様ありがとうございました。日々子どもと向き合う私たち保護者にとっては、とてもためになるお話がたくさんありました。

日 時 : 7月9日(火)10:00~11:30

場 所 : 本校 体育館

講 師 : 加藤 典子 先生(烏山小学校 すまいるルーム)

テ ー マ : 「みんなで考えよう! 親子がともに幸せになれる子育てとは?」

参加者 : 社会教育指導員 山田典夫様、橋口副校長先生、河野 PTA 副会長

～ 講演会内容 ～

- **本当の幸せとは何か?**
豊かなお金や物、高い地位や学歴があっても幸せを感じられない人は沢山いる。
本当の幸せとは人とのかかわりの中にある!
- **SOSを出している子ども**
家庭での反抗的な態度、学校での自分勝手な行動、友達とのトラブルが多い、やる気がない、勉強に取り組めない等
自分は大切にされていない、家庭環境の不満、満たされない思いを持った子どものサインである。
- **親子関係を改善することで子どもの状態が飛躍的によくなる**

< 2種類の自尊感情 >

「基本的自尊感情」: 子どもが適切に共感され、受け入れられ、大切にされていることで思う感情

「社会的自尊感情」: 他者と比べて自分は出来る、得意と思う事で高まる感情

子どもの基本的自尊感情を育てることが親子関係を改善するポイント!

基本的自尊感情を育てるには? …家庭で毎日取り組める事

- 「今日、学校で何が楽しかった?」と聞く
子ども自身が嬉しい、楽しいと思える「良い体験」を語らせ、子どもの記憶に残す
- 今できている事実を伝え、共感する
その子なりの成長を親として共感し、頑張っている様子を認める
- 子ども心の満足度を高めていく
毎日の楽しい食事、明るくあいさつ、楽しい親子の会話、楽しい親子のかかわり等
- 身につけさせたいことは親子で一緒に楽しくやる!
- 最もわかりやすい共感笑顔
- 作って遊ぶ体験が様々な能力を育む
- 行動の選択肢を与える
- スキンシップ

本公演のスライド資料は、全ご家庭に配布しております。
資料の最後には「日々の生活で使えるチェックリスト」もございますので、是非ご活用ください。



～ アンケートより ～

ご感想

「ポジティブな体験の定着」を積み上げる、のが印象的だった。
「良い体験の言語化」を意識して行っていきたい。
今直面している悩みの解決の糸口となりました。
子育てや将来に前向きな気持ちが出ました。
よりよく過ごし、幸せを感じるために、親と子どもの関わりを考え直すきっかけとなった。
子どもの笑顔=親の笑顔!!今日子どもが帰ってきたら笑顔で迎え接してあげたい。
「良い体験」をたくさんさせてあげること、存在を認めてあげることが大事だと思った。
褒めるではなく認めるという言葉で、褒めることを探さなくちゃ、と思っていたのがとても楽になった。
次年度以降も繰り返し聞きたい内容だった。
子の一番身近な存在である親の意識や声掛けがかわれば、学校での友達関係・学習もかわってくるのではないのでしょうか。
帰ってからまず「笑顔」で今日のことを語り合いたいと思います。
どんなことも成功体験にして終わらせるように、というお話がためになりました。
基本的自尊感情の大切さを改めて感じました。
子どもの目線に立って共感していないなと改めて考えさせられました。今日のような話を聞く事は考え方のプラスになり、リセットにもなるためとても良いなと感じた。
ちょっとしたことでも良い点を普段から見逃さず、共感していきたいと思いました。
改めて「笑顔でいる」といい大切さを学んだ
子どもの SOS のサインを見逃すところでした。
親の自我を押し付けない、など気付かされる場面がいくつかあった。
なるべく共感して前向きになる言葉がけをしていきたい。
もっと会話を増やし、笑顔で過ごせる努力をしたいと思った。
親のガンバリと子どもの満足度は比例しないというのが、もっともだと思い、考えさせられた。
日々休みのない子育ての中で、今日からできる”子どもにとって”そして、”自分にとって”のヒントが沢山ありました。
自分がいかに子どもを理解できなかったかも気づかせてもらいました。
仕事をしているため、短い時間の中でよりよい関わりを持つことが重要だと気付く事が出来ました。
「大切な存在だよ」ということを伝え、一緒に楽しむ、食べる、遊ぶ、ということをもっと意識していきたい。

アンケートに記載のあったご質問に、加藤先生が回答してくださいました。
裏面をご確認ください

当日参加された保護者のみなさんがメモをとりながら、加藤先生の話熱心に耳を傾けられていた姿が印象的でした。

お忙しい中、たくさんのご参加、ご感想ありがとうございました。

加藤典子先生より

講演会を終えて

すまいるルーム主任教諭 加藤 典子

7月の講演会では沢山の保護者の皆さんに会い、お話を聞いて頂けたことを心より感謝致します。事前に沢山の質問が寄せられ「多くの親御さんが子育てについて悩んでいるんだ...」と思うと同時に、リフレーミングしてみれば（プラスに言い換えれば）、「鳥山小には一生懸命子育てしている親御さんが沢山いる！」と気づき、なんと素晴らしいことだろう...と思えてきました。講演後のアンケートは大変励みになり、今後の参考にもなりました。本当にありがとうございました。

講演後のアンケートの中にこんな質問がありましたので、私なりに答えを考えてみました。

質問

不適切な言動や行動と反抗期・思春期の特有な反発の違いがあれば、教えてください。

幼い子どもの不適切な言動の裏には、注目して欲しいという欲求があります。叱られたり追いかけられたりすることが、「かまってもらえて嬉しい。」という気持ちになっていることもあります。そこで大切なことは、不適切な言動には注目せずに『温かく見守る』ことです。そして、適切な言動をした時を見逃さずに笑顔で反応し、共感の言葉や褒め言葉をかけることで、「いいことで注目された方がもっと嬉しい！」という思いにさせていくことが大切です。反対に、反抗期では親に干渉されたくないというポーズが見られると思います。だからと言って放っておけばいいということではありません。自分に興味をもって欲しいという気持ちはありますので、適度に距離を置き、思春期なので大人扱いしながら向き合う必要があると思います。そこで大切なのが親子の会話です。普段から会話していればこそ「困ったことがあったら親に相談しよう。」という気持ちにもなり、大きな反抗期がなくて済むとも考えられます。

質問

嘘にどう対応するか。嘘にも色々な種類があり、どう対応すれば良いかとても迷います。

子どもが嘘をつくにはその子なりの理由があるはずですが、何かに困っているけれど、助けを求められずに嘘をつくことになってしまったりもします。私は5年生ぐらいの時に、ピアノのレッスンに行くと嘘をついて、公園に集まっている友達と夕方遅くまで遊んでいました。家に帰ると母親が玄関で仁王立ちしていて、「あんた、ピアノに行かなかったよね！」と、

怒鳴られました。しかし、幸いなことに、ピアノの先生からは叱られてばかりでレッスンが楽しくないこと、ピアノをやめたいことを母親に正直に伝えることができました。頭ごなしに叱るだけで、子どもの気持ちを聞かないことが積み重なれば、自分の気持ちを表現しなくなります。正直に言えば言ったで、どうせまた怒られると思えば、嘘をつくことにもなります。もし正直に話してくれたら「正直に話してくれてありがとう。嬉しいよ。」と語りかけ、正直に言ってよかったという体験をさせることで、次からの態度も違ってくると思います。周囲の大人が嘘をつかなくて済む状態や環境を作っていくことが大切だと考えます。また、人を傷つけないための優しい嘘、親に心配かけないための嘘...もあります。それぞれの理由や背景を理解して柔軟に対応することで、子どもの心の成長に繋がると思います。

私は今まで通常学級の担任、特別支援学級・教室の担当、母親、嫁、妻など様々な立場を経験しながら我が子や教え子と向き合ってきました。その中で分かったことは、子どもはどの子も違った個性をもった素敵な存在であり、素晴らしい可能性を秘めているということです。どの子も向上心があり「もっといい自分になりたい。」と、思っています。不適切な行動をしている子がいるとしても、「今は、そのような状態にある」と捉え、その子の本質ではないと考えることが大切です。どのような体験を積み重ねれば、どのような声かけやかかわりをすれば、その子が本来もっている良い姿を素直に出すことができるのか、親だけでなく周囲の大人は常に考えていく必要があります。また、親子関係が良いということは、一番身近な大人を信頼することになります。このことが、学校という社会でも先生や友達を信頼し、より良い人との関係を築きたいという意欲に繋がります。また、厳しい言葉や注意を受けても、それを前向きにとらえ、自分の糧として成長する力にも繋がります。

最後に『自立とは、周りの人と支え合いながら自分らしく生きること』だと思います。この貴重な小学校時代に、自ら考え、自分で選択し、未来を切り開いていく力をつけさせていくことが何より大切です。そして、その力を家族のみならず自分の周りにいる人が幸せになるために使えることが、自分自身の幸せにも繋がることを、子どもたちに伝えていきたいと考えます。

子育てでお困りのことがありましたら、一緒に考えますので、お気軽にご相談ください。担任の先生か副校長を通してご連絡いただければ結構です。